

日々の祈り

2024年7月15日(月)~20日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるまに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・礼拝に来ることができない兄弟姉妹のために。
- ・九州連合長老会の働きと、それぞれの教会で長老として仕えている者のために。
- ・一週間、全国の教会のそれぞれの祈りの課題と、伝道の働きを覚えて祈りましょう。

15日(月)マタイによる福音書6章31~32節

だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。

昨日の主日礼拝の御言葉です。わたしたちは多くの思い悩みを抱えており、それに押し潰されそうになることがあります。しかし、わたしたちの命を与え、体を与え、そして御子を与えるほどに愛してくださっている天の父なる神さまを、もっと信頼しなければなりません。わたしをお造りになった方は、わたしに必要なものをすべてご存知で、すべてを与えてくださることがお出来になります。この方が、わたしたちの父なのです。

16日(火)詩編139編1~5節

主よ、あなたはわたしを究め／わたしを知っておられる。座るのも立つのも知り／遠くからわたしの計らいを悟っておられる。歩くのも伏すのも見分け／わたしの道にことごとく通じておられる。わたしの舌がまだひと言も語らぬさきに／主よ、あなたはすべてを知っておられる。前からも後ろからもわたしを囲み／御手をわたしの上に置いてくださる。

天の父なる神さまは、わたしを究め、わたしを知り、わたしの心の思いもご存知であります。わたしの道にことごとく通じておられます。一体どれほどこのわたしを愛し、関心を持ち、心にかけておられることでしょうか。このように、わたしをご存知でいてくださるお方が、わたしに必要なものを備え、前からも後ろからもわたしを囲み、愛と命と恵みの御手を、わたしの上に置いてくださっているのです。

17日(水)ペトロの手紙一 5章 6~7節

だから、神の力強い御手の下で自分を低くしなさい。そうすれば、かの時には高めていただけます。思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです。

わたしたちは、自分の力の弱さを自覚しなければなりません。わたしたちは思い煩いを、自分で何とかしたいと抱え込んでいます。しかし、自分の力に依り頼んでいる限りは、思い煩いから解放されることはありません。わたしたちは、神の力強い御手をもっと信頼し、この御前で自分を低くし、もっとこの方により頼むべきです。なぜなら、力強い御手を持つ神さまは、わたしたちのことを心にかけていてくださるかたであり、わたしたちの救いのために、全能の愛の力を働かせてくださるお方だからです。

18日(木)マタイによる福音書 6章 7~9節

また、あなたがたが祈るときは、異邦人のようにくどくどと述べてはならない。異邦人は、言葉数が多いければ、聞き入れられると思い込んでいる。彼らのまねをしてはならない。あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ。だから、こう祈りなさい。『天におられるわたしたちの父よ、／御名が崇められますように。…』

この御言葉は、「主の祈り」を教えてください。前にイエスさまが語られた御言葉です。わたしたちは、異邦人、つまり神さまを知らない者ではなく、神さまを知り、子どもとされ、「天におられるわたしたちの父よ」と呼ぶ者です。そして、イエスさまを与えてくださるほどわたしたちを愛しておられる父は、願う前から、わたしたちに必要なものをご存知です。イエスさまの「思い悩むな」との生き方は、まさに「主の祈り」に生きることなのです。

19日(金)詩編 62編 6~7節

わたしの魂よ、沈黙して、ただ神に向かえ。神にのみ、わたしは希望をおいている。神はわたしの岩、わたしの救い、砦の塔。わたしは動揺しない。

明後日の主日礼拝の御言葉は、マタイの「山上の説教」の締め括りのところです。イエスさまは、「わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている」と言われました。それは、イエスさまの御言葉に、イエスさまの救いに、イエスさまご自身に、自分の土台を据えて、人生を建て上げなさいということです。動かされない岩に支えられた家と同じように、イエスさまが、わたしたちの岩となってくださるなら、わたしたちは苦難の中でも、イエスさまに支えられて、動揺せず、倒れることなく、立つことができるのです。

20日(土)マタイによる福音書 7章 24~27節

「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどかった。

明日の主日礼拝の御言葉です。家は、しっかりとしたところに建てなければ、災いが襲ってきたときに簡単に壊れ、崩れてしまいます。わたしたちの歩みも同じです。虚しいもの、過ぎ去るものを抛り所とするのではなく、永遠に確かなものを抛り所としなければ、試練に遭うと簡単に倒れてしまうのです。わたしたちは父なる神を心から信頼し、イエスさまに依り頼んでこそ、支えられ、守られ、養われつつ、与えられた人生の一步一步を、確かに歩いていくことが出来るのです。

聖句：日本聖書協会『聖書 新共同訳』